

かがわ

自治連だより



● 山地 ● 農地
● 住宅街 ● 海岸

2025年(令和7年)

3月31日

Vol.30

発行:嘉川自治連合会

編集:広報委員会

住みたいね。嘉川 ひとよし ものよし ところよし



令和6年度自治連活動報告	2・3
《特集》嘉川の酒づくり15周年	4・5
地域では今	6
ふるさと嘉川への私の想い	7
私の自治会は	8

ふれあいわくわくウォーキング開催 令和6年11月17日(日)

興進小学校～相原山～大浦古墳群～興進小学校をウォーキング、その後、ビンゴ大会、宝探しゲーム等をみんなで楽しみました。嘉川海苔なべ、ぜんざい、わたがし、ポップコーン等もふるまわれ、充実した半日を過ごしました。(写真は相原山山頂)

〒754-0897 山口市嘉川4651-1

山口市嘉川地域交流センター内

TEL/FAX:083-989-3956 Mail:info@kagawaj.com



ホームページを活用しましょう

パソコンやスマートフォンでご覧ください。

<https://www.kagawaj.com/>

魅力あるまちづ

令和6年度

ひとづくり部会

◎部会長 落合 敏行

人が主役 豊かに”生きる“ 子育て団体や見守り活動を支援

年間延べ2000名もの乳幼児を受け入れ、子育て支援を行う嘉川子ども館“しゅっぱぽ”や中学3年生を対象に命の大切さを学ぶ『川西ちびっ子大集合』に取り組んでいる子育て支援組織“みらい”、小学生を対象にした夏休み『ふるさと学習』に取り組んでいる地区青少協などに運営費の補助を行いました。また、通学時見守りボランティアへのジャンパーの配布を行うなど、健やかなかがわっ子の育成に貢献しています。



高齢者の健康長寿

ボランティア団体やサークル活動を支援

高齢者が生き活きと過ごすためには健康と生きがいを保ち続けることが大切です。

このため、自治会では“いきいきサロン”や“健康相談”、自主的に行われる“ラジオ体操会”や“元気会”などが開催されています。

また健康づくり団体の他、清掃等の活動団体やコーラスなど趣味を活かしたサークル活動なども行われています。



このように地域に貢献する団体に対し、運営費の補助により、高齢者や地域の皆が楽しく交流できる機会の拡大に努めました。

環境づくり部会

◎部会長 深野 幸生

「嘉川清掃の日」と「大浦最終処分場」

昨年11月末の「嘉川清掃の日」では、参加者171人、川西中ボランティア「きずな」29人に受付をしてもらい実施し、約1時間で37袋のゴミが回収されました。

「ゴミのないきれいな町づくり」をめざして始まったのが平成20年。皆様の意識が高まりゴミのポイ捨てが少なくなり、今年度は昨年比べて半分の量です。ご賛同ご協力下さりありがとうございました。

昨年秋、大浦最終処分場で研修会があり、平成29年から始まった不燃物残さの搬入も、令和5年末には埋立容量の40%までになりました。ゴミの分別は、ゴミ・資源収集カレンダーで確認し減量化にご協力をお願いします。



環境美化という活動を通じてみんなの意識が高まり、情報交換の場所としての交流や親睦も深まります。一緒に参加してみませんか。

安全づくり部会

◎部会長 秋本 武美

通行危険箇所の解消に向けて

昨年は各地で地震・水害等の災害が発生する中、嘉川地域では大きな災害もなく、落ち着いた一年でした。

嘉川地域の道路は2車線道路が少なく、ほとんどが1車線の道路で幅員の狭少なところがたくさんあります。これらのほとんどが生活道路として利用されており、通行時にヒヤッとされたことが多々あるかと思います。

これらを少しでも解消するために、市道の拡幅工事を数カ所、調査計画を数カ所進めております。昨今の車両の大型化に対応し、安全性の向上に



市道上嘉川下高根線(岡)

寄与できると思います。見通しの悪い箇所にはカーブミラー等の補助的な施設の設置など、安全対策にも取り組んでいます。

くりをめざして

活動報告

また、高齢化の進行する社会において、交通弱者にも安全に通行できるよう、危険箇所の解消に努めて行きたいと思います。

少しでも、これらの事業がスムーズに進むよう皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

まちづくり部会

◎部会長 松崎 志郎

嘉川らしい交流の場・情報提供を

「住みたいね。嘉川」と実感してもらう交流の場や情報の提供をおこないました。

嘉川子どもみこしは参加人数130名と過去最高の子どもたちが地域の行事・文化に触れた楽しい行事となりました。

嘉川ふれあいわくわくウォーキングは相原山ウォークのあと、興進小グリーン広場で子どもから大人まで健康で楽しいイベントを満喫しました。

15周年を迎えた嘉川の地酒「嘉穂の郷」の酒米の稲刈り体験、記念蔵出し発表会と多数の参加者が交流し嘉川特産品に関心を深めました。

また、奇数月に開催される嘉川マーケットは出展者・参加者も徐々に増え楽しい交流の場となりました。さらにかがわ自治連だより、ホームページのブログを通して嘉川らしい情報を発信しました。

今年度は多くの方がイベントに参加し、交流を深めていただきました。来年度もわくわくする企画を提供したいと思いますので、たくさんの皆さまの参加をお待ちしております。



嘉川を知りながら絆を深めるイベントを紹介

◎嘉川地区青少年健全育成協議会長 市原 正彦

青少協で取り組んでいる、嘉川を知りながら親子や地域の絆を深めるイベント「嘉川ふれあいわくわくウォーキング」と「謎解きアドベンチャー in 嘉

川」を紹介します。

前者は、世代を超えて地域の人々が一緒にウォーキングとイベント（食事等）を楽しみ、ふれあいを深めてもらおう

というもので、毎年11月中旬の日曜日に実施しています。昨年度から嘉川まちづくり委員会と共催で行うことになり、企画も盛りだくさんの一大ふれあいイベントになりました。

後者は、コロナ禍により多人数が集まるウォーキングの代替行事として始めたもので、主に家族や友達とのふれあいを深めてもらおうというものです。指令書に基づき嘉川の遺跡や史跡をめぐり、そこにあるキーワードをつなげてできるクイズに答えてもらいます。

今年度は、「ウォーキング」に前年の倍以上となる約170名、「謎解き」にも180名を超える参加がありました。ご都合がつけば参加してみませんか。



自主防災本部

◎副本部長 小池 誠一

みんなで安心防災 みんなで命を守りましょう

今年は阪神淡路大震災から30年となり、私も当時は神戸港で仕事をしており、大変な思いをしたことが蘇りました。

去年は、嘉川地域には大きな台風もなく、大雨災害もなく、災害のない穏やかな一年となりました。

今年度も小中学生の防災学習を実施しました。10月に小学4年生を対象に「大雨災害・地震災害が発生した時にどう避難するか」をクイズ形式で考え、11月に中学1年生を対象に「地震が起きた時、どう行動するか」をテーマにグループで話し合いました。そして避難所でのテント、簡易ベッド、非常用トイレ等を体験し、家庭で備える防災グッズを手に取り、みんなで命を守る防災学習をしました。

いつ発生するか分からない災害の発生に備えて、避難行動や避難生活の支援ができるよう準備を進めています。

皆様のご協力をよろしくおねがいします。





《特集》お酒づくりでつなぐ地域の絆



15周年を迎えて

◎嘉川まちづくり委員長 渡辺 和弘



2010年、「嘉川の特産品を作って地域を盛り上げて行きたい」との思いで全くのゼロから始まった「酒プロジェクト」。お陰様で15周年を迎えることが出来ました。このプロジェクトに関わり、御協力頂きました皆様にはこの

場を借りて御礼申し上げます。

嘉川の酒米・水・酒蔵とオール嘉川にこだわり、時間をかけて味決めをし、名前を公募し、手作りでスタートした当時

のまちづくり委員会の皆様。そしてこの活動を維持継続し、地域に根付かせていかれた歴代のまちづくり委員会の皆様。また、陰になり日向になり温かく見守り、御支援頂きました「嘉川自治連合会」「嘉川地域交流センター」の皆様。そして何よりもこの活動に御理解頂き、「嘉穂の郷」を支えて頂きました嘉川地域の皆様。最後に酒米生産者の河端様、そして金光酒造様、誠にありがとうございました。

皆様様の期待に応えられる様、これからも「嘉穂の郷」の商品力を磨き、嘉川地域活性化の一翼を担って活動して参ります。



初期の思い出

◎元嘉川まちづくり委員長 杉山 幾久

「嘉穂の郷」をこれまで育ててくださった地域の皆様に、心より感謝申し上げます。

企画当時、嘉川地域住民が楽しく参加できる新たな事業について、会議を重ねておりましたところ、役員の松崎志郎さんより、嘉川の酒米、嘉川の酒蔵で、オール嘉川の地酒を作ってみようという提案がありました。当時はまだ日本酒ブームではなく、ゼロから始める事業への期待で、議論にも熱が入りました。



酒づくり15年の中で最も記憶に残る出来事は、4年目にYABの番組企画とともに挑戦した純米大吟醸酒づくりです。この年は、夏以降の気候条件が非常に厳しく、秋の最終局面で生産を断念することとなり、自分の無力さを痛感しました。

金光酒造の皆様と、地域に適した酒米づくりにご尽力をいただく河端隆之さんの力をお借りして、当まちづくり委員会は、これからも参加型のイベントを通して嘉川地域と結びついて参ります。

10周年の思い出

◎前嘉川まちづくり委員長 小池 賞

私は発案の頃から前任の委員長と共に嘉川のお酒「嘉穂の郷」に携わって15年が経ちました。

前委員長のもと、生産者、酒造会社への協力依頼から始まり、ネーミング・味・ラベル・瓶の色まで決めていく、とても大変でしたが楽しかった事を思い出します。

それから、酒米の田植えイベントの後にアユのつかみ取り選手権をする事になり、プールの作成をしました。最初は長方形の物を作りました。するとアユが角に集まりとても容易に取れる事に気付き、翌年には、角の緩やかな8角形のプールを作り少し難しくなり、楽しんで頂いていると思います。



平成30年から令和3年まで委員長をさせて頂きました。その間の一大イベントは、「嘉穂の郷」10周年記念です。当時、副市長の伊藤和貴氏（現市長）にも来て頂き、盛大に出来た事はとてもよかったと思います。

地域の熱意が実った嘉川の地酒 ◎まちづくり部会長 松崎 志郎

「嘉川でできたお米を使って、オリジナルのお酒を造ろう!」嘉川まちづくり委員会から声が上がリ、これを実現するため地域の子どもから大人まで一緒に田植え、稲刈り体験に挑戦しました。

嘉川には県内に誇れる酒蔵「金光酒造」があり、メイドイン嘉川の純米吟醸酒「嘉穂の郷」(名前は住民から公募)が平成23年に完成し、その後「にごり酒」、「大吟醸」が完成し販売しました。

地域の特産品として創出した「嘉穂の郷」は次第に地域に浸透し、田植え・稲刈り後に実施する「アユのつかみどり大会」等のイベントは住民の交流の場として定着しました。

15周年を迎えた今では、地域の熱意が実った「嘉穂の郷」を酌み交わし、地区民の心は一つに繋がっています。



酒米生産者の思い

◎酒米農家 河端 隆之(今井)

私は15年前、嘉川まちづくり委員会から地域の地酒・嘉穂の郷の酒米づくりを依頼されました。酒米づくりは初心者でしたが、初年度は品質不十分な米により大吟醸のお酒が作れませんでした。しかし、酒米の生産者として品質に妥協することなく、試行錯誤を重ね続けました。風水害などの天災に見舞われることもありましたが、米農家としての技術と経験を活かし、日々改良を重ねています。その結果、現在ではほぼ安定した収量と品質を確保できています。

特に嬉しいのが、この活動が地元住民との田植えや稲刈りのイベントを通じて地域へ貢献できていることです。これからのイベントは地元の絆を深め、新たな交流を生む機会となっています。

これからも品質の高い酒米づくりを心掛け、地域に貢献したいと考えています。努力を重ね、この地域、このお米、このお酒が語り継がれることを願っています。



「嘉穂の郷」醸造者の思い ◎金光酒造(株)社長 金光 明雄

当社は、大正15年以来、地域の人向けの酒造りを行っており、ほとんどが県内、7割が市内という地産地消の地酒メーカーです。長年続けてこられたのは、地元の人々のおかげと常日頃より思っているところに15年ほど前、嘉川まちづくり委員会より嘉川地域限定の酒造りのお話がありました。いつか地域のために恩返しをしたいと思っていたのですぐにOKし、協力して酒造りを始めました。

最初はいろいろ試行錯誤をくりかえしてお酒の試飲会も行い、酒質(味わい)を決めました。酒米の状態、麹の出来具合、仕込み温度、発酵のもろみの温度管理等、大変難しい作業の連続で、初年度の出来具合が心配でしたが、まずまずのお酒に出来上がり安心しました。以降、前年よりおいしい酒造りを目指して15年が過ぎましたが、皆様に気に入ってもらえるお酒になっているか毎年心配です。

今後も嘉川産米のおいしい酒造りを続けていきますので、ご協力とお引き立てのほどよろしくお願い致します。



嘉川の地酒「嘉穂の郷」のあゆみ

- ★平成20年度 まちづくり委員会役員会で嘉川の地酒づくりの意見が出された
- ★平成22年6月 第1回の田植え体験 (嘉川今井 河端さんの圃場)
- ★平成22年8月 公募で地酒の名前を「嘉穂の郷」に決定
- ★平成22年9月 第1回の稲刈り体験
- ★平成23年2月 金光酒造にて第1回新酒発表会を開催
- ★平成25年 YAB 山口朝日放送「どきどきマルシェ」で1年間放映
「にごり酒」の販売開始
- ★平成26年 「大吟醸」の販売開始
- ★平成27年 山口市市制10周年の嘉川ブースで紹介
- ★令和2年2月 10周年記念新酒発表会開催
- ★令和3年12月 コロナ禍の中、健康を祈願し「祈願酒」を販売開始
- ★令和6年12月 15周年記念蔵出新酒発表会開催

なぜ「山田錦」?

お酒の豆知識

“酒米の王者”と称される山田錦は、心白(米粒の中心に現われる白くにごって見える部分)が大きく、砕けにくい米です。高度な精米を行っても品質のバラツキがでないのが安定した麴造りができ、また、たんばく質の含有量が低いため、雑味の少ない日本酒を造ることができます。つまり、良質な酒米の条件を絶妙なバランスで満たしている米が山田錦というわけです。

「嘉穂の郷」の特徴



純米大吟醸酒

山田錦を4割まで磨いて使用し、フルーティーな香りがたようお酒です。

純米吟醸酒

山田錦を6割まで磨いて使用し、やや辛口でスッキリした味わい。

にごり酒

冬季限定(12月から翌3月まで)。甘口で飲みやすく、山田錦本来の味わい。

地域では 今...



嘉川地区憩いの場として50年「嘉泉荘」

◎嘉泉荘指定管理者 (株)三宅商事 吉武 功

山口市老人憩の家「嘉泉荘」は、昭和50年4月に開所して約50年間、地域の高齢者の皆様の集いの場としての役割を果たしてきました。60歳以上の高齢者に対し心身の健康増進を図ることを目的としています。ご利用時間や施設等については以下になっています。

※ 業務時間9:00～17:00

(休館日:毎週月曜と年末年始(12/28～1/3))

※ 入館料100円、回数券(11回1000円)

○入浴施設(温泉)10:00～16:00

泉質名:ナトリウム・カルシウム塩化物冷鉱泉

効能:慢性皮膚病等

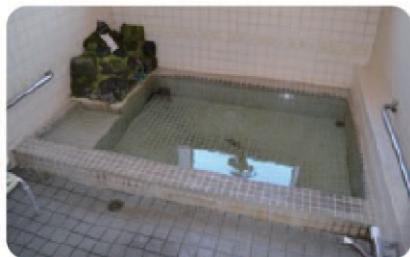
常備品:石鹸、桶

○マッサージチェア(10分100円)

○和室(テレビ、冷暖房完備)



嘉川八幡宮まで徒歩20分、地域の散策やウォーキングの拠点としても最適です。今の時期は暖かいお茶も準備しています。嘉川地区の皆様のお越しをお待ちしています。



10/31
(木)



ハロウィン開催(下高根)

地域のイベント Pick Up!

12/14
(土)



嘉川八幡宮でしめ縄作り

嘉川昭和会設立50周年を迎えて

◎嘉川昭和会 会長 藤岡 正義

嘉川昭和会は本年度で50周年を迎えました。記念事業として、嘉川の二大イベントの一つ嘉川文化祭において『山口住みます芸人の招致』、『チョークアート体験会』などを実施いたしました。皆様、楽しんでいただけたでしょうか。

昭和会は、嘉川地区内の事業者もしくは地区内に居住する商工事業者で構成され、その時代の地域ニーズに合わせて活動を進化させてきました。『電話番号簿』の全戸配布をはじめ、『嘉川悠々ふるさと探訪マップ』の作成や案内看板の設置、近年ではYoutubeを活用した『嘉川さんぽ』という動画を公開し、わが故郷嘉川の紹介活動を行っています。最近では『嘉川さんぽ 文化祭編』も公開していますので、ぜひご視聴ください。

なお、昭和会ではメンバーを随時募集しています。ともに楽しみながら地域を考える会へのご参加をお待ちしています。



第二のふるさと嘉川

◎西村 正浩(原条西)

防府に生まれた私は、小学校から吹奏楽を始め、中学校とユーフォニアムという金管楽器を吹いてきました。その後高校の音楽の教員になり、美祢工業を皮切りに大嶺、西京、防府、美祢、山口中央に勤務し、現在定年退職後の再任用で防府西高校に勤めています。

結婚を機に妻の実家がある嘉川に家を建て、その後、妻の家を継ぐこととなり、嘉川が私の第二の故郷になりました。

在職中は部活動(吹奏楽、合唱、オーケストラ)の指導や山ロボラスソサエティという一般の吹奏楽団のお世話を続けていたため休日も殆ど不在で、地区の行事になかなか参加できず御迷惑をかけました。そんな中、家族に支えられ自治会長や宮総代も務めることができました。

あと数年勤めが残っていますが、退職後は地区の方々との交流を深めていきたいと思っています。またこれからは畑仕事などを地域の皆様に教えていただき、孫と一緒に収穫できる日を夢見ています。



ふるさと嘉川にて思うこと

◎氏永 東光(宮の原)

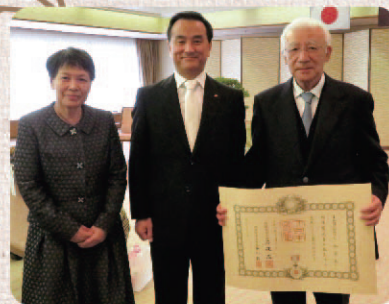
私は、昨年秋の叙勲の榮譽に浴させていただきました。これも皆様方のご支援の賜と心から感謝申し上げます。

2100年には日本の人口が今の半分の6300万人になるとの予測もあり、地方の消滅が危惧されている中、市内で一番の人口急増地域である嘉川地域の振興策として、「地域づくり」と「産業づくり」の面から具体的な取り組みを考えてみました。

地域づくりでは、小郡都市核づくりへの取り組みや榎野川の一級河川への昇格、また港の復旧復活等が考え

られます。産業づくりでは、若者の働く場所の確保が必須であることから、企業誘致の促進としての千見折開作の企業団地化、一次産業の振興策としての米作の菌根菌農法、野菜工場の増設、木材プレカット工場、各種養殖漁業の推進等が考えられます。

嘉川地域が更に振興し発展するよう、積極的に取り組まれることを切に願っています。



12/15
(日)



クリスマスリース作り

増築
完了



嘉川小おおぞら学級

河内川に思いを寄せて

◎矢広団地自治会長 今金 英明

矢広団地は、30年ほど前に設立された全戸数22の小さな自治会です。団地内の子は30年前とほとんど変わっていませんが、住民の入れ替わりが多少あり、新たな刺激を受けています。設立当時は子どもの数も多く、団地内は子どもの声でにぎやかでしたが、多くの子どもたちが進学や就職で離れていきました。しかし今でも、人数は少なくなりましたが、小さな子が団地内を走り回ったり、家族と散歩したりしています。団地全体で子どもたちの成長を見守っていききたいと思います。

団地の隣には河内川が流れ、小さな橋を挟んで建つ嘉泉荘の川沿いの土手では、毎年初夏になると、夜の水辺を蛍が飛び交う幻想的な風景が見られます。昔から比べるとずいぶん数が減りましたが、少しずつ回復しているように感じます。団地の住民も蛍の幼虫の生育環境を壊さないよう、河川清掃など注意を払っています。この初夏の風物詩が長く続くよう環境を守っていききたいと思います。



※写真は団地と嘉泉荘に挟まれた川沿いの土手です。初夏になると、夜、蛍が舞い飛ぶ様子が見られます。

お伊勢祭りとお歳祭り

◎向原自治会長 磯部 豊男

お伊勢祭りは毎年1月6日に行われる向原自治会の年中行事です。向原自治会の30世帯が神様に新年の挨拶と健康を祈願するため、嘉川八幡宮の宮司様にお越し頂きお祭りが行われます。

30世帯は上の講、下の講、前の講と三つの講に分かれていて、一つの講が残りの二つの講を接待するというかたちで、順番に回って行われます。コロナ禍前は、朝早くから接待の準備が始まるため、特に女性の方々の役割が大変でした。コロナ禍以降、神事は行いますが接待が中止され、参加者と名家に弁当の配布をするようになりました。

また大歳祭りは、毎年旧暦の11月1日（去年は12月20日）に行われます。

これからも新年のお伊勢祭りと年末の大歳祭りを、大切に行っていききたいと思います。



わたしの
自治会の
プチ自慢

情報をお寄せください!

おすすめ
ビューポイント

こんな特技を
持つ人が
います

情報提供は
コチラまで



珍しい
花が
咲きました

嘉川地区での情報（写真と短い説明文）をお寄せください。
自治連ホームページ（上記QRコード）内のe-mailから
または自治連事務局（嘉川交流センター内）までお願いします。

編集後記



嘉川の酒造り15周年を特集しましたが、年2回発行の自治連だよりも30号の本号で15年目を迎えます。そこで2010年（平成22年）9月1日発行の創刊号（当時は嘉川地域づくり協議会だより）を読み直してみました。翌23年に山口国体を控え、20年より山口市で推進中の「協働のまちづくり」の熱意の中、嘉川をいかに住みよいまちにするかと諸先輩たちが侃々諤々の議論を重ねられたのであろうと推察できます。私たち現広報委員も、自治連の活動を余すところなく皆さんに伝えていきたいとの思いを新たにしました。